

高松支部 活動報告

1 研究主題

教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動

2 はじめに

今年度はタブレット端末を含む ICT を教育業務に活用し、教職員の機械的、ネットワーク的なトラブルに対処できる技能の向上を目指すことが結果として、学校の総合教育力を底上げするという考えから主題を設定し、具体的な活用方法やその基礎的知識・認識を深めるための研修会を実施した。また、Te-Comp@ssについての質問やトラブル解決方法について各校でまとめた対処マニュアルなどを集め、今後の円滑な活用に生かしてもらえよう保管することになっている。昨年度に引き続き現場の状況を鑑みたより実利的な研修を行うことができた。

3 研究計画

平成 28 年度のグループを継続し、第 2～4 回主任研修会及び高松支部夏季研修会の企画・運営を担当した。

(1) 第 1 回 (4 月 27 日屋島中)

①昨年度報告・今年度計画

②事業報告・会計報告

③役員選出・事業計画

研究グループ一覧

北：桜町、紫雲、玉藻、高松第一、鶴尾、木太

南：龍雲、太田、山田、香川一、三木、塩江

東：屋島、協和、古高松、牟礼、庵治、高松北

西：勝賀、一宮、香東、下笠居、国分寺、香南、

附属高松

平成 29 年度研究組織

部会長	岩井 秀樹	校長	屋島中学校
副部会長	高原 健二	副校長	高松一中
研究主任	柴田 恒		太田中学校
研究副主任	室園 恭規		庵治中学校
庶務	森宗 利晃		屋島中学校
会計	藤原 悟		玉藻中学校
放送コン	平尾 高治		太田中学校

(2) 第 2 回 (6 月 21 日高松第一中)

県警サイバー犯罪対策室の講演

(3) 夏季研修会 (7 月 27 日高松第一中)

携帯・スマホ関連情報セキュリティ講習

e とびあかがわ

(4) 第 3 回 (9 月 29 日高松第一中)

電子黒板機能内蔵プロジェクター実演講習

エプソン四国営業所

(5) 第 4 回 (H30 年 2 月 21 日屋島中)

・ H30 年度のまとめと反省 (活動報告書)

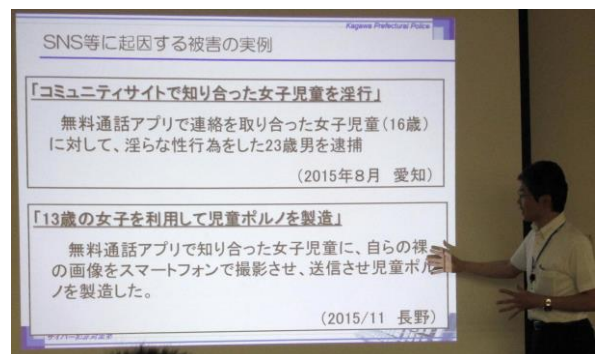
・ H30 年度研究計画・研究組織について

4 研究内容

(1) 第 2 回研修会では香川県警サイバー犯罪対策室から講師を迎え、情報モラル・セキュリティに関するサイバー犯罪から中・高校生を守るための指導のポイントについて話を聞くことができた。

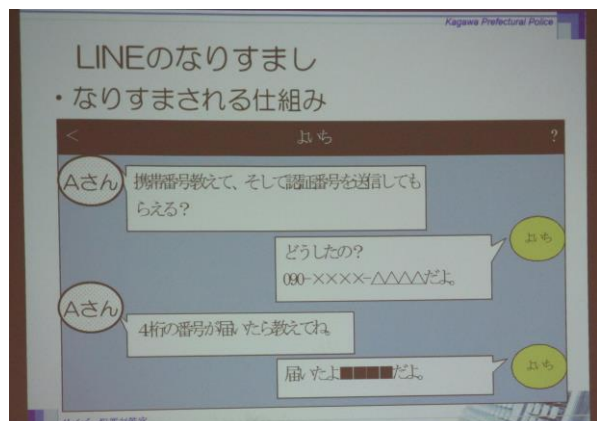
香川県警の統計資料によると、平成 28 年度の県内のサイバー犯罪の検挙件数は 145 件、全国では 8000 件に上る。県内の件数は前年度に比べて大幅な増加傾向にあることが報告された。

現在の中・高校生は身近な生活の中に携帯電話やインターネットの環境があり、これらを利用する機会も多い。LINE やツイッターなど SNS の利用から個人情報不用意に漏らしたり、安易に発信したりすることが、後に大きな危険性につながることを認識しないまま利用している実態がある。



出会い系・コミュニティサイトによる被害例として、出会い系アプリについてよく分からないまま利用した女子学生が、女性を装った男性

と身元の確認もないまま簡単に出会ってしまったことから性的被害にまで及んだ事案が紹介された。また、LINEでのなりすましから金銭的なトラブル、被害に発展した事案が紹介された。



このような実態を踏まえ、SNS上で知り合った人と安易に会わないことや甘い言葉や誘いに気を付けること、カードの認証番号等の扱い方、よく分からないまま興味本位でやらないことが被害から自分自身を守るポイントであることが示された。講演の最後には、現在プロバイダ責任制限法など法律の整備ができつつあるものの、インターネットは完全な匿名ではなく、被害に対するリスクや加害者になることもあること、社会的非難や制裁も受ける可能性があることも伝えられ、生徒一人ひとりの情報モラル・セキュリティの意識を高め、育てていく指導の必要性が示された。

(2) 携帯・スマホ関連情報セキュリティ講習

夏季研修会ではeとぴあかがわにおいて恒例となった情報モラル・セキュリティ指導のあり方と指導法について研修を受けた。



まずeとぴあ・かがわ講師による四国各県の中学校に出向き行っている中学生向けの講座のデモンストレーションを、生徒の立場で体験した。スマホの所有率が中学校1年生で約50%

であることや、中学生の利用状況が動画の視聴やコミュニケーション（通信・交流）が多いことを紹介された。その中で、コミュニケーションとは相手の脳内イメージを共有すること、つまり心の共有をすることを意味するが、現在は心をなくしたコミュニケーションが多いことを知らされ確認した。

次に、SNSの利用におけるトラブルの例について再現ドラマで視聴し、その原因についてディスカッションした。①誹謗中傷発信や②悪ふざけの情報発信などが原因としてあげられた。また、最近の自殺した事例（LINEの裏グループによる書き込み・いじめやリベンジボルトなど）についても紹介され罪に問われることを説明された。さらに、デジタルコミュニケーション7原則や困ったとき・誰にも相談できないときの連絡先についても確認した。

ネット依存については、依存チェックを参加者それぞれが行い、その上で「依存を避けるには」というテーマでディスカッションを行った。最後に、SNSが役にたった事例に触れることもできた。ツールを一般常識の範疇で正しく使えば、それは「人生をより豊かにできるプラスなもの」となる認識を新たにできた。

(3) 電子黒板における可能性と実践例

第3回研修会ではエプソン四国営業所の講師を招き、電子黒板機能内蔵プロジェクターについて以下の三項目について学習した。

ステップ1・PCレス電子黒板機能

PCと接続しなくても、書画カメラと連携して大きく映した既存の教材にペنツールを使って書き込みができる。また、タブレットやデジタルカメラ、ビデオカメラ、DVDプレーヤーを接続して、写真教材やビデオ教材の拡大提示による共有やペンツールによる補足書き込みを行った。

ステップ2・デジタル教科書・教材を簡単に使いこなせる。

教材を投射することによって板書時間を減らし、思考・発問時間を増やすことができる。また、オリジナル教材の紹介やデジタル教科書を投射画面で操作したり、ペンツールを使った書き込みをしたりして、生徒の理解力アップに役立てる。

ステップ3・タブレット端末との連携

生徒用タブレット画面を投射し、発表に使う。また、比較提示や進捗の確認、ペンツールによる補足書き込みを行う。電子黒板からの画面送付も、比較的簡単にできる。

ステップ1~3については、それぞれ実際の操作を見ながら説明を受けた。また電子黒板の操作体験や、タブレット端末との連携も体験することができた。



(4) その他

第4回研修会では今年度一年間の研修の総括と、ICT機器の活用を苦手とする教員が参考にできる、機器操作方法を簡単にまとめたプリントやリーフレットの制作についてそれぞれのグループ別に項目をまとめる話し合いがもたれた。この内容を受けて、ゆくゆくは各中学校に配布できるような操作ガイドを作成できればICT機器の円滑な使用を後押しできるのではないだろうか。

5 現場の要望と今後の課題

e とびあかがわを始め各機関の協力により開催してきたネットモラル・情報セキュリティ啓発に関する主任研修会は、ICT・IoTの技術革新が日進月歩であるため、毎年最新情報を見聞きする場を設け、機会あるごとに教員間で情報共有することが必要である。

ハードウェアの拡充については、画像映像を扱うことの多い学校現場のコンピュータのメモリ増設(8GBの実装)や、Te-Comp@ssシステム不具合の迅速な修正などを切に希望したい。

さらに授業でのタブレット端末の活用を鑑みた「各教科の現時点で実現可能な限り最新の要素を含む授業実践」の取り組みについて前年度

に続き授業実践を考えなければならない。

タブレット端末の使用習熟度をあげるための研修はメディア教育部会研修会から各校の取り組みに下ろす必要がある。また、ICT機器について教員が誰の助けを借りなくても自分で準備操作片付けができるようにするため、これ以上メディア担当教員の負担増に繋がらないようにするにはどうしたらよいか考えなければならないが、効果的な回答は得られていないのが現状である。

懸案だった機器の故障・メンテナンスについては、その対応をまとめた冊子を作り機械操作を苦手とする教職員に啓発することにも取り組み始めている。

